

## 発刊によせて

蒸気と高温水は古くから暖房用や産業用の高温熱媒として広く用いられており、最近では地域暖房の担い手としてはなばなく登場した。

しかるに現在、わが国では空調一辺倒の時代に入ったためか、これらに関する参考書が必要であるにもかかわらず、ほとんど出版されていない。熱工学をふくむ便覧などには一応触れられているが、ページ数の制限のためか、その内容はまことに稀薄である。

こうした時期にあたり、千葉孝男さんが「蒸気・高温水システム—配管系の設計から施工まで—」という参考書を発表されたことは、まことに時宜にかなった企画と言うべきであろう。

千葉さんは小生とはすでに三十年以上の親交があり、千葉さんは実業界の人としてはまことに学究的で、小生の論文作成に当たっても数多くのサジェスションをいただき、これがきわめて有効な御助言であった。

千葉さんの今回の著書を拝見すると、その内容は統制がとれていて欠けるところがなく、また正しい理論に裏付けされて、この難解な理論をわかりやすく説明して、初学者にも理解できる点、まことに良き参考書と言うべきである。

また、蒸気の還水管の二相流の問題、トレンチ内配管の熱損失の問題、カスケードヒータの新しい解法などに最近の研究結果を取り入れている点、千葉さんのたゆまざる勉学の成果である。これらの難問題はそれぞれ例題を付して説明してあるので読者はこれによって最新の理論の活用ができるであろう。

このような参考書はとかく設計面にかたよりがちであるが、本書では、配管、バルブ、伸縮継手、蒸気トラップなどの材料について詳細に説明し、また、これらの施工法、とくに地中埋込配管の施工法については計算法も含めてくわしく触れられている。

本書は地域暖房をはじめ、暖房配管の設計、施工を行う設備関係の技術者、工場における熱輸送および熱管理の技術者や、これらをこころざす学生などの

初学者の方々に対し、最良の参考書となることを信じ、ここに本書を推薦するものである。

1990年8月

井上 宇市